

学術広報企画について

2023年5月24日（水）

北海道大学大学祭全学実行委員会実行委員長 高橋快士

北海道大学大学祭全学実行委員会事務局事務局長 福元政文

北海道大学大学祭全学実行委員会事務局学術広報企画担当 山田涼生

榆陵祭 2023 実行委員会実行委員長 森友勇人

榆陵祭参加団体の皆様へ

拝啓 木々の緑が目まぶしい今日このごろ、ご清祥のことと拝察いたします。北大祭・榆陵祭開催間近となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。この度は榆陵祭 2023 参加団体向け公式オープンチャットにて多くの方からご意見・ご質問いただいた学術広報企画についてご説明いたします。

● 企画の概要

学術広報企画の概要は以下の通りです。

「学術広報企画とは、公開講義や公開実験など北大祭で行われる学術企画に参加した来場者に北大祭の金銭授受が行われているすべての模擬店で使用できるクーポンの配布を行う企画」

● 本企画実施の目的

学術広報企画を実施する目的は以下の通りです。

- ・北海道大学の学術的成果を社会に還元すること。
- ・形として社会に還元するのではなく、できる限り多くの方に学術的成果を享受する形で還元すること。
- ・できる限り多くの方に学術的成果を享受するために、より多くの方に学術企画の存在を周知すること。
- ・学術企画は来場者が積極的に足を運びにくいメインストリートから離れた各学部棟で行われるため、立地の条件を周知でもって補うこと。
- ・形として周知を行うだけでなく、より多くの方に学術企画への参加に関心を持っていただけるような周知を行うこと。
- ・より多くの方に学術企画への参加に関心を持っていただくために、学術企画に参加することで高い満足感が得られる魅力的な企画とすること。
- ・学術企画に参加した来場者に模擬店企画にも足を運ぶ契機を与え、北大祭参加団体による模擬店企画に賑わいをもたらすこと。
- ・学術企画と模擬店企画の賑わいを通じて北大祭全体を盛況なものとする。

● 本企画の提案に至った経緯

学術広報企画を提案するに至った経緯は以下の通りです。

◆ 第 65 回北大祭に向けての北海道大学大学祭全学実行委員会事務局 (以下、北大祭事務局) の方針

北大祭事務局では第 65 回北大祭に向けて以下の方針の元、活動しています。

- ・北大祭全体を客観的に見た際に、最も盛況と言える成功状態となるよう最大限努めること。
- ・北大祭が来場者にとって充実していると思えるものとなるように努めること。
- ・北大祭が参加団体にとっても充実していると思えるものとなるように努めること。
- ・北大祭の盛況のため、それにつながる北大祭の持つ潜在性をあらゆる方面で画策すること。

◆ 北大祭の盛況につながる潜在性の画策

北大祭をより活気あるものとするため、その潜在性の画策を行いました。そして以下の経緯の元、学術方面に力を注ぐ運びとなりました。

- ・北大祭の持つ潜在性を画策する中で、北大祭が”北海道大学”という旧帝国大学かつ北海道で最高の研究機関・教育機関で行われる祭典であることに着目し、その学術的成果を社会に還元する形でその特性を発揮することがよりよい北大祭の実現に大きく貢献すると判断したこと。
- ・学術的成果をより多くの方に享受することは北海道大学の特性をより強く発揮することと同義であり、学術企画の内容の拡充および企画の広報に力を入れることがより盛況な北大祭の実現につながると判断したこと。

◆ 学術企画の広報手段の決定

学術企画により多くの方に関心を持っていただくための広報手段についての検討を行いました。そして以下の経緯の元、クーポン配布という形式をとる運びとなりました。

- ・第 61 回北大祭以前、北大祭事務局では学術企画を実施していたが、企画は来場者にとって積極的に足を運びにくい、模擬店企画が多数並ぶメインストリートから離れた各学部棟で行われるため、一定数・一定層の参加者はいたが少なく、その傾向が長らく続いていたこと。
- ・盛況な北大祭の実現のために、学術企画への参加者数が多いことが望ましいと考えたが、企画は各学部棟で実施する他ないため、来場者に企画への参加に関心を持っていただくには広報の方法に工夫が必要と判断したこと。
- ・学術企画に参加することで高い満足感が得られる魅力的な企画とするには、例年の北大祭で最も賑わいを見せている模擬店企画を訪ねる来場者からも需要がある企画である必要があると判断したこと。
- ・学術企画が模擬店企画を訪ねる来場者からも需要があり、かつ広報力の高い企画とするには学術企画に参加した来場者に北大祭の金銭授受が行われているすべての模擬店で使用できるクーポンの配布を行うことが最善案であると判断したこと。

● 本企画の具体的内容に関して決定した経緯

学術広報企画の具体的な内容に関しては決定した経緯は以下の通りです。

◆ 決定・判断を行う際の留意事項

北大祭事務局では次の事項を念頭に具体的な企画内容の決定・判断を行いました。

- ・北大祭は北大祭事務局を中心とした運営組織だけでなく参加団体、来場者すべてが揃って初めて成立する行事であること。どの一つもかけては成り立たないこと。
- ・北大祭事務局の決定・判断が北大祭全体を客観的に見た際に、最も盛況と言える成功状態の実現に適しているか必ず確認を行うこと。
- ・北大祭事務局の決定・判断が参加団体と来場者の両者にとって充実した北大祭と実感できるものとして適しているか必ず確認を行うこと。
- ・北大祭事務局の決定・判断によって参加団体と来場者に不利益が生まれないように最大限努めること。また不利益が生まれる場合も最小となるように最大限留意すること。
- ・企画実施の有無は正式な手続きでもって決定・すること。

◆ クーポン配布を行う対象者とその枚数

クーポンの配布対象は「学術企画に原則最初から最後まで参加した来場者」です。これに決定した理由は以下の通りです。

- ・本企画は学術的成果を参加者に還元が目的であるため。
- ・企画の趣旨に反するクーポンの受け取りのみを目的とした来場者への配布を対策するため。

またクーポンは参加者一人につき 1 枚配付します。別の企画に参加すれば新たにクーポンが配付されます。

◆ クーポンの使用可能対象店

クーポンを使用できる対象は「金銭授受を行うすべての模擬店」です。これに決定した理由は以下の通りです。

- ・クーポンの使用対象が広範囲に渡ることによって学術企画に参加した来場者が模擬店企画にも足を運ぶと想定し、企画未実施の場合よりも模擬店企画に売上や来客数といった面を含む意味で総合的により良い結果がもたらされると判断したため。
- ・来場者にとってクーポンを使える模擬店と使えない模擬店があると不都合が多いため。
- ・クーポンを使える団体と使えない団体を生むことによる団体間での不平等が生じることを防ぐため。

◆ 北大祭参加団体への負担の最小化

北大祭事務局では北大祭参加団体への負担を最小とするため、団体に委ねる負担として適切な範囲の基準を定めました。基準は以下の通りです。

- ・負担額の面で、団体に負担を委ねるのに適切な範囲の上限は、第 64 回北大祭参加団体に負担していただいた分担金とコロナ対策費の総額とすること。
- ・上記基準の元、学術クーポンによる割引によって団体の収益とならなかった額と第 65 回北大祭参加団体に負担していただいた分担金とコロナ対策関係費の総額が、第 64 回北大祭参加団体に負担していただいた総額以下に収まるようにクーポンの発行枚数と割引額を定めること。
- ・提供する商品とその値段の違いによる団体間の不平等性が限りなく少ない事。
- ・クーポンの存在で、精算時に新たに発生する手間が限りなく少ないこと。
- ・クーポンの存在で、団体に新たに用意していただくものが限りなく少ないこと。
- ・クーポンの存在で、北大祭に滞りを生まないためにクーポン使用のルールを明確に示すこと。
- ・クーポン使用のルールは北大生であれば理解にたやすく、来場者や団体構成員に説明できる内容とすること。

上記基準の元、クーポンの割引額・発行枚数・使用上のルールを定めました。

◆ クーポンの割引額

クーポンの割引額は

「総額 500 円以上お買い上げの場合、40 円割引

総額 300 円以上お買い上げの場合、30 円割引

それ未満の場合、20 円割引」としています。

上記の割引額に決定するにあたり、考慮した事項は以下の通りです。

- ・参加団体にとって不利益となる点が最小となるように、割引額を抑え、割引によって団体の収益とされない額を最小にすること。
- ・クーポン内容を学術企画に参加することで得られる特典として十分に満足できるものとする。
- ・北大祭が参加団体のみのために行われているのではなく、来場者がいてこそ成り立つ行事であることから、来場者への配慮も最大限取り入れること。
- ・北大祭に参加団体が提供する商品は多種多様であるため、一様の割引内容であると大きな不利益を被る団体が生まれてしまうため、控えること。
- ・割引額を割引率で定めた場合、端数が生まれることや、参加団体がおつりのために多くの小銭を用意しなければならないこと、代金の計算に手間がかかるなど、来場者にも参加団体にも大きな負担となるため、控えること。
- ・第 64 回北大祭では予約制を用いた厳重な来場者制限を行っていたが、第 65 回北大祭では予約制を廃止し、来場者数が大幅に増えると想定され、それに伴い参加団体企画を訪ねる来場者数も大幅に増えると想定されること。

◆ クーポンの発行枚数

- クーポンの発行枚数は、4月下旬には最大6500枚を予定していました。当時そのように想定した理由は以下の通りです。
 - ・過去の北大祭における来場者の学術企画への参加率に関するデータを元に、企画ごとの目標参加者数を1日あたり100人に設定したこと。
 - ・企画への参加者全員へクーポンを配布することを想定していたため、100枚に”学術企画の予想数”を掛けた結果である6500枚を発行する想定をしたため。
 - ・クーポンが各団体に等しく使用された場合に、割引額を鑑みて、割引によって団体の収益とならなかった額が団体に負担を委ねるに適切な範囲に収まっていると判断したため。
- しかし現在は3500枚発行を予定しています。当初の想定とずれが生じた理由は以下の通りです。
 - ・榆陵祭における各団体の企画内容申請の締切が4月末であり、榆陵祭以外の各祭（農学祭・工学祭・医学展など）における最終的な企画の内容が5月中旬まで不透明であったため、4月下旬には学術企画にあたる企画数を予想する他なかったため。
- 現在も”予定”として示しているのは、学術関連の企画を行うすべて団体から学術広報企画担当者に連絡が来ていない状況にいるからです。
- 最終的な発行枚数は5月27日（土）に確定いたします。確定し次第、発行枚数を各団体の団体責任者宛てのメールにてお伝えいたします。

◆ クーポン使用上のルール

- 来場者には以下のルールを守ってクーポンを使用させていただきます。
 - ・一度使用したクーポンを再度用いることはできない。
 - ・一度の精算につき1枚まで使用を可能とする。
 - ・模擬店ガイドとの併用は認めない。
- 参加団体の皆様には、来場者にクーポンを使用された際、次のように対応していただきます。
 - ・クーポンを半分に破り、一方を来場者に渡し、もう一方を受け取り、廃棄する。
 - ・受け取ったクーポンの不正使用をしない。
- 上記のようにルールを定めた理由は以下の通りです。
 - ・クーポン発行枚数のみが使用されるようにするため。
 - ・精算時の手間を最小限にするため。
 - ・クーポンが不正に使用される可能性があるのは参加団体が正しくクーポンを受取せず、不正に使用した場合に限られるため、不正使用を望まない参加団体は不正をせず、不正のチェックを行われると想定したため。

◆ 企画実施の正式な決定

学術広報企画の実施の有無は北大祭に関する最高決定機関である北海道大学大学祭全学実行委員会（以下、全学実委）に議案として提出され、2022年度後期第6回全学実委にて採決が取られ、全学実委規約に則り正式に実施することが承認されました。本承認をもって企画の実施を決定いたしました。

◆ 北大祭参加団体に対する企画実施と注意点の周知

全学実委での正式な決定を受け、北大祭は参加団体がいてこそ成り立つ行事であることを踏まえ、榆陵祭 2023 参加団体に対しては、準備ガイドブックに企画が実施の旨や詳細な情報を記しました。また、榆陵祭 2023 説明会にも早期の時点で登壇し、口頭でもご説明させていただきました。

学術広報企画に関してお伝えすることは以上となります。

本資料を熟読してもなお、ご不明点・疑問点がある場合は下記の連絡先までご連絡ください。

北大祭事務局学術広報企画担当 山田涼生

MAIL: lecture@hokudaisai.com